

ず～むあっぴ★

オホーツク

2022年
11月号農林水産省
北海道農政事務所
北見地域拠点

津別峠の雲海

(株)E・H・F (津別町)

有機酪農に取り組む農業法人

(株)E・H・F(イーストヒルズファーム)は、令和2年に代表の山田耕太さんが、松木憲賀さん、今井順司さんと共同で設立した農業法人です。3名は平成12年から活動する「津別町有機酪農研究会」のメンバーであり、同法人としても有機酪農に取り組んでいます。

令和3年6月には、ロータリーパーラー、搾乳ロボットなどの設備を導入した新牛舎の稼働を始めました。各戸で飼育していた乳牛を新牛舎へ移動するときは運搬車が何度も往復しなければならず、大変だったそうです。



導入されたロータリーパーラー(左)と管理室(右)

有機飼料の完全自給を目指して

現在の農地面積は、約300ヘクタールあり、全ての耕地で有機飼料の生産を行っています。

約230ヘクタールが牧草地(うち約40ヘクタールが放牧地)で、残りの約70ヘクタールでデントコーンを作付けしています。

収穫した飼料は、TMRセンターに輸送され、有機飼料専用のラインで調整された後、1日1回の配送を受けています。

(株)E・H・Fでは、自給飼料約80%、購入飼料は約20%です。購入飼料には一部輸入品も含まれておりますが、価格が高騰しているため、更に自給率を高める意向です。



作業中の給餌ロボット



新牛舎の外観と(株)E・H・Fのロゴマーク

スマート農機導入などによる省力化

共同での法人化に踏み切った背景は、各構成員の牛舎の老朽化、労働力の不足などでした。

牛舎の新設にあたって、搾乳ロボットや給餌ロボットなどのスマート農機を導入しTMRセンターを利用することで、省力化と作業の効率化を図りました。

余裕が生じた労力を、牛の衛生管理・健康管理に充てることで、生乳の品質の向上に繋がりました。

また、牛舎の作業を主に従業員に任せることで山田代表ら構成員は畑作業に集中できる余裕が生まれたとのことでした。



放牧地の様子

経営の拡大と継続へ

現時点の飼養頭数は、経産牛が約160頭、育成牛が約130頭です。新牛舎の牛床には余裕があるため、今後5～7年かけて搾乳牛を250頭程度にまで増やすことを計画しています。さらに、飼料の自給を進めるため、離農者の農地を取得し、農地面積を拡大することも計画しています。

後継者について山田代表は「従業員を育成し、事業を継続していきたい」と抱負を述べられていました。

【問い合わせ先】

住所:北海道網走郡津別町字東岡170-1

TEL:0152-77-6853、FAX:050-3512-4424